

鳥取市市民まちづくり提案事業【協働事業部門(行政提案型事業)】 事業実績

No	団体名 事業名	事業概要	効果	事業の様子	市助成金(円) 事業費(円)	評価(行政)
					事業費(円)	
1	鳥取とうふちくわ総研 植田 英樹	<p>■目的と効果 今、話題のご当地グルメをはじめ、鳥取市中心市街地は鳥取独自の食文化における発祥の場所が多く存在する。 現在、鳥取市中心市街地の活性化が課題となる中、そうした鳥取市が全国に誇るべき食文化を市民とともに再発見しそれらを食べ歩くことで、中心市街地の魅力を創造発信し交流人口を増加させる。今回の事業によって鳥取市における「まちなか観光」の増進を図る。 また、ツアーの場所を飲食店が集中する中心市街地に設定することで、マチ歩きとともに鳥取の食を楽しみながら知ることができ、知人や客人を連れて再度訪れる「マチナカリピーター」の造成も図る。</p> <p>■内容 鳥取の食文化に詳しい市民ガイドによる案内で鳥取市独自の食文化を感じられる飲食店を食べ歩くツアーの開催 ○食を提供する人の話を聞く場を設定し、鳥取の手仕事の魅力を再発見 ○食べ歩き後に鳥取の食のPR方法につき参加者と意見交換会 ・第1回「食欲の秋先取り！」鳥取発ガツリグルメ”特集” 実施日：平成25年10月27日 実施場所：まちバル鳥取 他4か所 ・第2回「発見！鳥取の食の素顔”鳥取スッピングルメ”特集” 実施日：平成25年12月8日 実施場所：居酒屋ぐらっちは 他4か所 ・第3回「おせちの次はコレ！”鳥取カレーランチ”特集” 実施日：平成26年1月26日 実施場所：喫茶ベニ屋 他3か所 ・第4回「新名物続々登場”鳥取ネオご当地グルメ”特集” 実施日：平成26年3月30日 実施場所：本家夢屋西町店 他3か所</p> <p>■参加者数 79名(1回あたり20名定員)</p>	<p>■協働による効果 1. マチの魅力として最も注目の高いものは「ご当地の食文化」である。今回の食べ歩きツアー参観者からは「鳥取の食の楽しさを見た」「知人と一緒にまた来店したい」「鳥取のマチナカは歩いて楽しめる場所と分かった」と中心市街地の魅力を確実に実感していただけた。再訪もしていただくことで中心市街地の活性化にも寄与することができた。 2. 事業を通じて、中心市街地における食の魅力をプラスアップしたこと、鳥取市の都市観光の魅力(メニュー)を向上させることができた。特にJR鳥取駅から徒歩5分圏内にある鳥取観光コンベンション協会が管理する「まちバル鳥取」を発着点としたことで、同所をマチナカ観光の拠点と位置付けることができた。 3. ツアーの定員は20名であったが、鳥取市と連携してツアーの事前告知やツアーレポートも発信することで、毎回定員を超える申し込みがあった。特に3回目、4回目は50~60名と定員の3倍を超える応募となり、市民の関心の高さがうかがえた。また、県外や市外からの応募者もいるなど、食べ歩きは観光コンテンツとしての魅力が高いことが証明された。参加者のリピーターや女性も多かったこともあり、今後の鳥取観光メニューに加える大きなきっかけともなると思われる。 4. 課題としては「観光メニューの確立」があげられる。これについては、次年度以降に今回連携した鳥取市、観光コンベンション協会と協議を重ね、必要に応じては試用ツアーや実施し、鳥取観光コースに発展させていきたいと考える。</p> <p>■課題に対する成果 1. 地域資源として鳥取で半世紀以上にわたり愛され続けている「ご当地の食文化」に特化したこと、結果として毎回定員を超える参加希望があった。 2. 回を追うごとに参加希望者が増えたことは、「鳥取にある資源で鳥取を楽しむこと」への市民の関心の高さを示している。これを継続的に続けることで、食に止まらず地域への関心を高く持ち、かつ創造性と活動的な行動が起こせる“まちづくり”に欠かせない人材の輩出に寄与できると思われる。 3. まちづくりにおいて重要な要素は「市民が地域に関心を持ち自慢すること」であるが、その意味では今回の事業に大きな成果であったといえる。今後はツアー参加者から募集を募りガイドや主催イベント、また地域づくり活動を行い、新たなまちづくり活動へ発展させることも検討していきたい。</p>	  	400,000	担当課: 経済観光部経済・雇用戦略課 1. 日曜日の昼間に複数店舗を巡ることで、平日よりも落ちる傾向にある休日の集客増と回遊性の向上に貢献した。 2. 参加者が実際に店舗を訪れて料理を味わい、店舗関係者と交流することで、その後の新規客の獲得による売り上げ増に貢献した。 3. 参加者からは、「地元でも知らない店やグルメを知る機会になった」や「また参加したい」という声が多く聞かれたなど、大変好評であった。また、参加者各々がFB等にツアーや店舗の情報を掲載したり、地元新聞にも2回取り上げられるなど、中心市街地の情報発信と関心喚起に貢献した。 4. 参加者からは、「ツアード知った店やグルメを友人に宣伝したい」という声が多く聞かれたなど、各々が地元の良さを宣伝しようというまちづくりへの意識の高揚に貢献した。
2	アートスタジオfuka-hire 田中 隆政	<p>■目的と効果 【目的】 中心市街地区域において空き家となっている建物や、まちなかのちょっとしたスペース、店先などを舞台に、緑化をテーマとしたアートイベントを開催し、新たなまちの魅力を創出する。 【効果】 ・空き家の建物の魅力を引き出し、活用の1つの方法を提案する。 ・複数の場所を活用してイベントを開催することにより、まちの回遊性を高める。 ・既存ストックを活用することにより、地域住民に対して新たなまちの魅力発見の契機にする。 ・イベントの一部を全国都市緑化とつりフェア期間中に開催し、街なかにおける緑化活動の活性化、市内外からのフェア来場客のまちなかへの誘導を図る。</p> <p>■内容 ・イベント1「めぐり花」：旧旅館をメイン会場にして、フラワーデザイナーのアドバイスを受けながら、参加者全員で作品を作り上げるワークショップ実施 実施日：平成25年11月2日、3日 実施内容：ワークショップ、講演会、オープニングパーティ 実施場所：鳥取市瓦町「とめや旅館」、他7か所 ・イベント2「はしご花」：イベント1の会場を回りながら、それぞれの空間と作品の関係性や使用された植物や季節の行事等についてフラワーデザイナーと参加者で語り合う。 実施日：平成25年11月3日、4日「はしご花」 実施内容：ワークショップ 実施場所：鳥取市瓦町「とめや旅館」、他4か所 ・関連企画：煎茶カフェ、本屋バー</p> <p>■参加人数 延べ380名</p>	<p>■協働による効果 1. 中心市街地でのイベント実施にあたり、まちなかでの展示会場の選定など適切なアドバイスを受けることができた。また、会場協力を受ける際にも、鳥取市との協働事業ということで、協力的な申し出を受けることができた。 2. 記者室への情報提供や「わっか」などの広報誌により、広報の協力を得ることができた。 3. 当日のイベントの受付業務など人的なサポートを受けることができた。</p> <p>■課題に対する成果 1. 古い家屋をリノベーションして活用した店舗等を会場として使用することにより、イベント参加者に活用事例を紹介することができた。 2. フラワーアーティストの作品により、普段見過ごされてきた空間が再生し、その価値を見直すきっかけを提供することができた。また、元旅館のメイン会場を含め、中心市街地の8会場を巡るイベントとなり、まちなかを歩くきっかけを提供し、まちの潜在的価値や魅力を感じてもらうことができた。 3. 全国都市緑化フェアの来場客をまちなかに誘導できたかどうかは不明だが、11月3日については川端商店街で行われた歩行者天国のイベントの来場者からの誘導はおこなわれていた。</p>	  	400,000	担当課: 都市整備部中心市街地整備課 1. まちなかの複数の場所(8か所)を会場とし、参加者がそれぞれの会場を歩いてめぐったことにより、まちの回遊性が高まり、新たなまちの魅力を発見する契機となった。 2. 空き旅館を交流拠点として利用している「ことめや」や、古い家屋をリノベーションした店舗等を会場とし、そのような活用に興味のある市民が多く来場したことにより、既存ストック(空き地や空き家、地域資源等)の活用事例の紹介と、空き物件活用への意識を高めるきっかけとなりました。 3. 花のイベントに加えてお茶会を開催したことにより、幅広い年齢層の来客につながった。また、会場に滞在する時間が増えたことにより、参加者同士の交流につながった。
	とつりのまちをあるいてめぐる事業				800,000	